

# 特集！米空母艦載機着陸訓練

～東京都小笠原村硫黄島～



東京都小笠原村硫黄島

## 目次

## CONTENTS

- 1 特集！米空母艦載機着陸訓練 ～東京都小笠原村硫黄島～
- 2 平成26年度北関東防衛局防災訓練
- 3 関東地区スペシャルオリンピックス ～在日米空軍横田基地～
- 4 自衛官募集案内

6・7月号

# 特集！米空母艦載機着陸訓練(FCLP)

## 米空母艦載機が硫黄島で着陸訓練を実施

### 訓練期間中約3,450回の飛行を実施

平成26年5月8日から同月20日までの間、硫黄島（東京都小笠原村）の滑走路を米海軍空母ジョージ・ワシントンの甲板に見立てた艦載機着陸訓練（FCLP：Field-Carrier Landing Practice）が今年も行われました。

この訓練は、米海軍空母ジョージ・ワシントンの出航に先立ち、空母艦載機が海上で空母に安全に着艦できるようパイロットの練度を維持・向上することを目的とした陸上の飛行場の滑走路で行われる着陸訓練であり、空母の出港直前に集中的に行われるもので、米海軍の艦載機のパイロットにとって必要不可欠な訓練です。

今回の訓練には、米海軍空母ジョージ・ワシントンの艦載機であるF/A-18E、F/A-18F、EA-18G、E-2C、C-2Aが参加し、期間中に約3,450回の飛行が行われ、予定していた訓練全てを硫黄島で実施しました。



## FCLPの経緯

### 厚木飛行場周辺地域の航空機騒音を軽減するため平成3年より実施



昭和57年2月から、米海軍空母ミッドウェイの艦載機による夜間着陸訓練が厚木飛行場において行われるようになったため、市街化の進展が著しかった同飛行場の周辺地域においては、当該訓練による騒音等の問題が発生しました。

平成元年1月、厚木飛行場周辺地域における航空機騒音を軽減するためには、同飛行場で実施されている空母艦載機による夜間着陸訓練を早期に他に移転することが重要と考え、代替施設を確保するまでの間、硫黄島を暫定的に使用することについて、米側と合意を得ました。

これを受け、平成元年度から4ヶ年の計画により、硫黄島に灯火施設等滑走路関連施設、給油施設、士官宿舎、下士官宿舎及び倉庫等の施設が整備されました。

この施設整備が進められている中、平成3年8月、硫黄島において初の米空母艦載機着陸訓練が行われ、施設整備が概ね完了した平成5年度以降、本格的な米空母艦載機着陸訓練が同島において行われることとなりました。

## 北関東防衛局もFCLPを支援

### 硫黄島に職員を派遣し昼夜を問わず訓練を支援!女性職員も活躍

北関東防衛局は、可能な限り多くの艦載機着陸訓練が硫黄島で安全且つ円滑に行われるように、5月1日から5月23日までの間、企画部次長をはじめ職員22名を硫黄島に派遣し、米海軍、現地の海上自衛隊及び航空自衛隊との連絡調整、訓練施設の維持管理、給食及び役務の提供等の支援業務を昼夜を問わず行いました。米軍との調整に当たっては、同局企画部地方調整課連絡調整第2係長の荒井事務官をはじめ、女性事務官らも対応し、女性ならではのきめ細やかさを生かして丁寧な通訳や役務調整に努め、円滑な訓練実施に大きく貢献しました。

現場の支援室長を務めた同局企画部次長の山田技官は「天候にも恵まれ、各種調整や支援などもスムーズに実施でき、米海軍が予定していた全ての訓練を硫黄島で行うことができました。今後も厚木飛行場周辺の騒音の軽減が図られるよう、硫黄島における米空母艦載機着陸訓練を支援していきたい」と話していました。



### 硫黄島における米空母艦載機着陸訓練支援を終えて

北関東防衛局企画部地方調整課 荒井事務官



米軍と調整を行う荒井事務官(右)

私は今回計10日間に亘り硫黄島での米空母艦載機着陸訓練の支援要員の1人として、主として米海軍と北関東防衛局・海上自衛隊・航空自衛隊との間の連絡調整時の通訳支援業務を務めました。私の支援業務も他の業務と同様に、パイロットの方々が着艦に必要な技量及び資格を確保し、訓練が円滑かつ予定通り行われるよう様々な場面、事態で支援することなので、それを常に意識して業務に携わりました。特に、米海軍が報道関係者等を招いた訓練の取材では、事前の米海軍、海上自衛隊等との綿密な調整を行い、適切な受入体制を整えることに腐心しました。

その姿を見た上司には「連絡調整会議時の荒井さんは、通訳というよりも議長だったよね」と、冗談交じりに言われました。それだけ真摯に業務に携わった姿勢をお褒め頂いたものとして、前向きに受け止めています。この訓練が無事に終わり、共に同訓練を支援してきた支援要員の同僚と米海軍の最後の航空機が離陸したのを見届けた際には、支援業務を無事にやり遂げた達成感、同業務に携われることの出来た幸せと誇りを感じました。また、今後支援業務に携わる方々にも、このような経験を継承していく必要性を感じました。最後に、1人娘にも胸を張って自慢出来る当業務で得た経験を、これからの仕事にも最大限活かしていきたいと思っています。

# 平成26年度北関東防衛局防災訓練

## 南海トラフ地震を想定し訓練を実施

平成26年6月2日から6日までの間、北関東防衛局において「平成26年度北関東防衛局防災訓練」が行われました。本年度は、陸自東部方面総監部が実施する「平成26年度自衛隊統合防災訓練」と連携し、6月2日午前9時30分に南海トラフ地震が発生したとの想定の下、訓練が開始されました。

訓練開始後、渡邊北関東防衛局長から、職員の安否確認、対策本部の設置及び東部方面総監部への連絡員の派遣準備等の指示が出され、各担当部署は速やかに対応しました。

4日は、陸自大宮駐屯地に技術支援チームを派遣し、防衛施設の被害状況の把握や応急措置が行われましたが、被害状況については、当局の新たな取組みである映像伝送装置によりリアルタイムで報告・指示が行われました。この映像伝送装置は、インターネット回線に対応した装置で、スマートフォン等で手軽に映像や音声によるライブ中継が可能となるものです。



## より現実的な対応シナリオを作成することが重要



訓練最終日には、柴田事態対処支援室長から、訓練実施結果報告がなされ、当局の対応について議論が行われました。渡邊局長から「今回の訓練の対応シナリオを時系列で詳細な資料として残し、次回は当該シナリオを更に検証し改善する。これを何回も積み重ねて、より現実的な対応シナリオを作成していくことが重要」との指示がありました。

その後、北関東防衛局防衛補佐官の奥村1等陸佐から「円滑な初動対応」について講演があり「災害への備えは自衛隊員個々の使命であり、それぞれの職責において、何を準備しなければならないのか日頃から考えて欲しい」との話に対し職員は改めて真剣に考えていました。

北関東防衛局では、今後とも、継続的に防災訓練を行うとともに、災害時における自衛隊・米軍に対する各種支援活動や関係自治体との緊密な連携に主体的かつ積極的に取り組んでいきたいと考えております。



# 関東地区スペシャルオリックス～在日米軍横田基地～

## 今年も在日米空軍横田基地で開催!

平成26年5月31日（土）、在日米空軍横田基地（東京都福生市）において、横田基地主催による「関東地区スペシャルオリックス」が開催されました。

スペシャルオリックスは、知的発達障害のある人の自立や社会参加を目的として、日常的なスポーツプログラムや、成果の発表の場としての競技会を提供する国際的なスポーツ組織で、1962年、ジョン・F・ケネディの妹ユーニス・ケネディ・シュライバーが自宅の庭を開放し35名の知的発達障害のある人たちを招いて行ったサマーキャンプがその始まりとされ、現在では全世界170カ国340万人が参加しています。

関東地区スペシャルオリックスは、1980年に横田基地の米国防省学校所属の3名の生徒のために開催されて以来、今年で35回目を迎え、開会式では色とりどりの35個の風船が舞い上がりました。



開会式で青空に舞い上がる35個の風船



## 米軍や地域住民等の支援の下、精一杯のプレー!

当日は、米国防省学校の生徒さん、関東の幅広い地域の施設、学校団体など9団体から総勢150人以上の選手の皆さんが、在日米軍・自衛隊関連団体をはじめ、地域の友好クラブ等日米数多くの団体の支援の下、多数のボランティアスタッフや応援団の皆さんの拍手や声援を受け「精一杯力を出して勝利を目指そう。たとえ勝てなくとも、がんばる勇気をあたえよ」の宣誓の言葉を胸に、50m・100m・200m走、ソフトボール投げ、水泳、バスケットボール等の競技を行い、日頃の成果を競い合いました。

今年のスローガンは「KEEP YOUR HEAD UP,KEEP YOUR HEART STRONG（前を向いて、強い心で）」。その文字の書かれた3種の揃いのTシャツを身にまとい、競技はもちろん、仮装やバーベキュー、チアリーダーングに太鼓の演舞など、様々な催しも行われ、参加者全員で一体となり、イベントを楽しもうという雰囲気に満ちた楽しいイベントでした。

在日米軍、自衛隊、地域が一体となり、選手の精一杯のプレーと共に盛り上がるこの大会、日米友好の願いをこめて今後も毎年開催されていく予定です。



## 平成26年度 自衛官等募集案内

募集項目		資格	受付期間	試験期日	合格発表	入(校)隊
自衛官候補生	男子	18歳以上27歳未満	年間を通じて受付を行っています。詳しくは最寄りの自衛隊地方協力本部にお問い合わせ下さい。			
	女子	18歳以上27歳未満	8月1日 ～9月9日	9月25日～29日 (指定する1日)	11月7日	27年3月下旬 ～4月上旬
一般曹候補生		18歳以上27歳未満	8月1日 ～9月9日	1次9月19・20日 2次10月9日～15日 (1・2次とも指定する1日)	1次10月2日 最終11月7日	27年3月下旬 ～4月上旬
航空学生		高卒(見込含)21歳未満	8月1日 ～9月9日	1次9月23日 2次10月18～23日 3次11月15日～12月18日 (2・3次とも指定する1日)	1次10月10日 2次(海)11月12日 (空)11月7日 最終27年1月21日	27年3月下旬 ～4月上旬
防衛大学 校学生	推薦	高卒(見込含)21歳未満の成績優秀かつ生徒会活動等に顕著な実績を納め学校長が推薦できる者	9月5日 ～9月9日	9月27・28日 (1日または2日間)	10月31日	27年4月上旬
	総合選抜	高卒(見込含)21歳未満(自衛官は23歳未満)	9月5日 ～9月9日	1次9月27日 2次11月1・2日 (指定する1日)	1次10月17日 最終11月28日	
	一般(前期)	高卒(見込含)21歳未満(自衛官は23歳未満)	9月5日 ～9月30日	1次11月8・9日(2日間) 2次12月9～13日 (指定する1日)	1次11月28日 最終27年1月20日	
	一般(後期)	高卒(見込含)21歳未満(自衛官は23歳未満)	27年1月21日 ～1月30日	1次27年2月28日 2次27年3月13日	1次27年3月6日 最終27年3月20日	
防衛医科大学校 医学科学生		高卒(見込含)21歳未満	9月5日 ～9月30日	1次11月1・2日(2日間) 2次12月17～19日 (指定する1日)	1次12月3日 最終27年2月18日	27年4月上旬
防衛医科大学校 看護学科学学生(自衛官コース)		高卒(見込含)21歳未満	9月5日 ～9月30日	1次10月18日 2次11月29・30日 (指定する1日)	1次11月14日 最終27年2月6日	27年3月下旬 ～4月上旬

※1：自衛官候補生(男子)の平成27年3月高等学校卒業予定者又は中等教育学校卒業予定者のための採用試験は、原則として平成26年9月16日以降に行います。

※2：資格欄中の「高卒」は中等教育学校卒業者を含みます。

※3：応募資格年齢の起算日は、募集種目ごと異なっていますので、それぞれの募集要項で確認して下さい。

○他の種目や詳しい内容は、最寄りの自衛隊地方協力本部へお問合せ下さい。 **自衛官募集ホームページ**

茨城地方協力本部：029-231-3315

栃木地方協力本部：028-634-3385

<http://www.mod.go.jp/gsdf/jieikanbosyu/>

群馬地方協力本部：027-221-4471

埼玉地方協力本部：048-831-6043

千葉地方協力本部：043-251-7151

東京地方協力本部：03-3269-3513

新潟地方協力本部：025-229-3232

長野地方協力本部：026-233-2100

東京地方協力本部は、7月28日、東京都新宿区新宿6丁目27-30(新宿イーストサイドスクエア5階)に移転しました。

★「北関東防衛局広報」のバックナンバーは、北関東防衛局のホームページでご覧になれます。

[www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/kouhou/kouhou-main.htm](http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/kouhou/kouhou-main.htm)

北関東防衛局広報

検索